

あとがき

第4・5期編集委員長 小川 潔

この4年間編集委員（委員長）を務め、6月に新委員会に引継ぎをしました。何人かの委員の方には、引き続き編集委員にとどまっていたくことにもなりましたが、ともかくご苦勞様でした。

この4年間は、学会誌「環境教育」のスタイルを整える仕事が大きな部分を占めたように思われます。投稿区分や複数査読者制の徹底、特集の試行などです。また、当初心配された原稿集めに関して、念願の投稿数の増加に、編集委員会事務局は、うれしい悲鳴をあげることになりました。これも会員皆さんの努力と期待の結果だろうと思います。

この間、正直言って自分の研究論文の投稿をする余裕がなかった状態でした。査読や、編集事務に明け暮れる日々でした。そこでは、苦勞しないで受理できる投稿が多数来ることを願いつつ、実際は投稿原稿の修正作業を投稿者、査読者とともにすることが多かったと思います。編集の仕事の立場からは、間違いや曖昧なことは学会誌には載せられないという使命感が付きまといまいます。もし万一にも、誤りが学会誌に載ってしまうと、それが権威づけられたまま独り歩きしてしまいますから、石橋をたたいて渡るような慎重な原稿の取り扱いが要求されます。それは投稿者にとっては、たいへんめんどうな、あるいは権威的ハードルに見えたかもしれません。

編集委員会発足時に申し合わせた、総説の雛型を編集委員自らが書くということは、とうとう果たせませんでした。また、編集委員が論文に仕上げのお手伝いをするという理想も、十分機能できたとは言えなかったと思います。たいへん心残りであり、会員の皆さんに申し訳ないと思うところです。

本号（9巻1号）は、旧編集委員の責任で出版すると運営委員会で承認していただき、新編集委員会とも役割分担をしましたが、旧編集担当で済ませるべき事項がいくつか積み残しとなってしまいました。また1999年度の春になって、事務担当者の退職、私の職場での思いがけない事故等のた

め、編集作業が終盤になって滞り、皆さんにご迷惑を掛けましたことをお詫びします。

投稿論文等を受理した通知が届きましたら、印刷原稿にするためにテキストファイルに保存したフロッピーディスクとプリントアウトした紙原稿1部を編集委員会までお送りください。